

令和4(2022)年度 第3回 大阪府立西成高等学校 学校運営協議会 記録

【日時】2023年1月21日(土)10:00~12:00

【場所】大阪府立西成高等学校 多目的A

【出席者】西成高等学校校長 山田勝治・教頭 笠原英樹・事務長 橋本知幸
PTA 会長 山下佳織・梅南鋼材株式会社代表取締役 堂上勝己
A'ワーク創造館館長 高見一夫・Office ドーナツトーク代表 田中俊英
にしなり隣保館スマイルゆ〜とあい事務局長 西田吉志
大阪大学特任教授 榎井緑・大阪市立鶴見橋中学校校長 緋田隆平

【内容】

- 1 開会
- 2 校長挨拶
- 3 報告・議事
 - (1)「令和4年度 学校経営計画及び学校評価(案)」
及び「令和5年度 学校経営計画及び学校評価(案)」
 - ・令和4(2022)年度 学校教育自己診断アンケート結果について
 - ・多様な教育実践校について
 - ・スクール・ミッションについて
 - (2)47期生 進路状況
 - (3)その他(保健室の運営について)
- 4 閉会

【事務局からの説明及び各委員からの意見等】

- (1)「令和4年度 学校経営計画及び学校評価(案)」
及び「令和5年度 学校経営計画及び学校評価(案)」
- 令和4(2022)年度 学校教育自己診断アンケート結果について
- 生徒のアンケート結果(昨年度と比較して)
 - ・エンパワメントスクールに来て良かったという生徒はやや減少したものの8割以上で多数
 - ・入学して自分は成長していると感じる生徒はやや減少
 - ・「授業では自分の考えをまとめたり発表したりする、一人一台端末について活用できている」⇒非常に高い数値
 - 教職員のアンケート結果

- ・「人権について取り組んでいる」98%評価
- ・「学校行事について」95%の高評価
- 保護者向けのアンケート
 - ・「学校は挨拶などの基本的な生活規律の指導に力を入れている」9割の肯定
 - ・98%の保護者が学校方針に理解を示している
- 欠点・遅刻欠席について
 - ・欠席者は増加しているが、遅刻者は全体的には減少している
- 高2ギャップ問題
 - ・2年生は退廃的になり、毎日が同じ繰り返しでアンニュイになる
 - ・高2の心理状況に刺激を与える方法が必要
 - ・テーマをもって2年目をいかに楽しむかという計画をしてもいいのではないか
- 広報について

<中学校向けにやったこと>

- ①公立学校進学フェアにてプレゼンをし、200名近くの中学生在が来てくれた
 - ・オープンスクール全体で300名近く参加
 - ・教員はパーカー着用、生徒も手伝い全体で盛り上げた
- ②一日高校生体験
 - ・食堂や授業、制服の体験
 - ・中学生は11名参加
- ③出前授業を行った
 - ・10件の授業を行った
- ④中学校向けの説明会を行った
 - ・中学生対象の個人的な資料請求これまでで30件程度

○多様な教育実践校について

- ・ワーキングチームについて現在の進捗状況報告

⇒現在、カリキュラム等をまとめている。新しいみんなで楽しむ環境づくりを考えている。6月にカリキュラムを発表して8月にオープンスクールなどを考えている。

○スクール・ミッションについて

- ・来年6月くらいに決定する予定。
- ・生徒を幸せにする学校であるために、教育・福祉・労働の連携をめざす。
- ・西成高校がキーステーションとなることで地域全体をつなげていきたい。

- ・地域に特化した学校をめざすべきである。
- ・人権に関わるネットワークに子どもが関わっていけるようにしたい。
- ・保護者にも学校の良さを見てもらう必要がある
- ・反貧困学習の始まりから生徒の「困っている」に寄り添ってきた。今後も子どもの現状と実践をどう組み上げていくかで新しいことにチャレンジしていきたい。

(2)47期生 進路状況

- ・75名が内定をもらっている
- ・内定先について今年度は機械製造が少ない
- ・地域協働キャリアセンターと協力して生徒のインターンシップなどに繋げたい
- ・現在、中小企業は人材不足で悩んでいる。売り手市場にはなるが求められる人材が変わってくるのではないかと。